

4月7日（月）ケンブリッジ大学教授の Mark Howarth 先生にご講演をしていただきました。

講演タイトルは“Protein Superglues for robust assembly of enzymes and protection from outbreak threats”であり、SpyCatcher-SpyTag を用いたタンパク質の結合技術の開発からその幅広い応用例に至るまで、非常に興味深い内容をご紹介いただきました。

Howarth 先生は、Streptococcus pyogenes に由来するタンパク質間の不可逆的な結合を利用して、SpyTag と SpyCatcher というペプチド・タンパク質ペアを開発されました。この技術により、タンパク質同士を高効率かつ遺伝的にコード可能な方法で安定に結合させることが可能となり、酵素の耐熱性向上や多機能材料の構築など、さまざまな応用が展開されています。講演では、酵素搭載ハイドロゲルや生体材料の設計、さらに感染症への対策など、基礎から応用まで多岐にわたる研究成果が紹介されました。

質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。Howarth 先生は、日本との学术交流をさらに深めることにも意欲を示されており、今後の共同研究や交流の展開が期待されます。

ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

